

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立富野小学校】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	北九州市立富野小学校 5年生・2学級 49名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的学習の時間 「車椅子バスケットに挑戦」 ） ② 行事名（福澤選手と交流をしよう） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名 （国際車椅子バスケットボール大会に出場・観戦しよう）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子バスケットの選手の方の話を聞き、競技用車椅子の使用体験をすることで、障害を持った片が力強く前向きに生きていこうとしていることを学ぶ。 ・ 車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して障害をもった方たちと共生する社会について考える。
5 取組内容	<p>第1次 6月～9月</p> <p>① 車椅子の使用体験を行い、車椅子の乗り方・介助の方法を知る。 （総合）（2時間）</p> <p>② テーマを決めて、本で調べよう。（3時間）</p> <p>③ ④⑤⑥⑦ 「車椅子バスケットをしてみよう」アレアスより指導者来校 （5時間）</p> <p>⑧選手から話を聞きふり返りをしよう。（2時間）</p> <p>10月25日（金）3校時・4校時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車イスバスケットの競技者（福澤翔氏）から話を聞き、競技用車椅子の使用体験を行った。福澤氏から車イスバスケットボール競技に関する説明や車イスの操作方法に関するお話をいただいた。体験学習では実際に車椅子バスケットの試合などして競技を楽しむことができた。 ・ 講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考えることができた。 ・ 午後から、講習会や体験についてのふり返りを行った。

	<p>⑨⑩⑪⑫11 月下旬オーストラリア代表選手と交流をしたり、チャンピオンズカップで小学生試合に出場したり、各国代表の試合を観戦したりしよう。(4 時間)</p> <p>⑬ふり返りをしよう。(1 時間)</p> <p>⑭発表方法について話し合おう。(1 時間)</p> <p>⑮発表準備をしよう。(1 時間)</p> <p>⑯発表をしよう。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>講師の福澤翔氏から車イスバスケットボールの歴史や競技のルールについて説明を受け、実際に 1 人对 5 人で試合をしたり、実演して頂きながら車椅子バスケットボールについての説明を受けた。</p>  <p>車椅子バスケットのことだけでなく「思いやりをもつこと」の大切さや大変なことがあっても前向きに生きることの大切さなど生き方や考え方についても話をされた。</p> <p>皆、福澤選手の顔を見ながら真剣に聞いていた。</p> <p>日ごろ車椅子バスケットの練習に取り組んでいることもあり、実践を交えながらの話は説得力があり、貴重な出会いとなったと考える。</p> <p>また、オーストラリア代表選手とも車椅子バスケットを通じた交流を行い、チャンピオンズカップでは横断幕を作りオーストラリアを一生懸命応援する姿が見られた。</p>  <p>さらに、「北九州チャンピオンズカップ国際車イスバスケットボール大会」に小学生大会に出場し観戦する機会を得て、実際の競技を体験したり見たりすることで迫力を感じ、多くの児童が感動することができた。</p>

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>5年生の児童数が多いものの、できるだけ多くの児童が体験できるように車イスを借りてきて体験できるようにした。チャンピオンズカップ児童の試合にでることが決まったことから競技用の車椅子を長い間借りることができた。また、障害者スポーツセンターより指導者を招き競技についての指導を受けることができた。</p> <p>講演者を選定するにあたり、障害者スポーツセンターに相談した。福澤氏は講演の経験が多く、また、車いすバスケットボールを通じた交流を小学校と行っていることもあり、子どもたちにとって分かりやすく興味を持てる講演をされる方であり、講師として最適な方を障害者スポーツセンターから紹介して頂きありがたかった。</p> 
<p>8主な課題等</p>	<p>人数が多いため体験を十分にさせることができなかった。もう少し長い時間を確保できれば、より多くの児童に体験させることができるのではないかと考える。ただ、体験を多く行うほど講演の時間が長くなることから講師の方の負担にならないように交渉を進めないとならない。</p> <p>月に2回程度アレアスから車椅子バスケットの指導をお願いして練習をしてきたが、5年生は他にも行事が多く、他の教育課程と折り合いをつけながら取り組むということに苦勞をした。</p> <p>来年度以降も小学生大会に出場することができれば、車椅子をずっと借りることができ、コーチからも何度も技術や障害者スポーツに対する考え方について指導していただいたり話していただいたりすることができるのだが、時間的な制約が多いのが大きな課題と言えやるにしてもしっかりと年度はじめにしっかりと計画した上で取り組む必要があると考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本年度の取り組みが、5年生にとって有意義な学習になったことから来年度もできるならば福澤氏を講師招聘して車イスバスケットボールの魅力伝える講演会・体験会を実施したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5年生 車イスバスケットボール講演会・体験会 ○ ボッチャなどの障害者ととみにできるスポーツの体験